

# 2020年度 国際連携部門 事業報告書

---

**和歌山大学**  
**国際連携部門(IRD)**



国立大学法人  
**和歌山大学**



## 目 次

### 【1 基幹事業概要】

(1) 海外大学との交流締結状況	5
(2) 交換留学 受入状況	7
(3) 交換留学 派遣状況	7
(4) 日本語・日本文化研修留学生（日研生） 受入状況	7
(5) その他学生 受入状況	7
(6) その他学生 派遣状況	7

### 【2 日本語・日本文化教育関連事業報告】

(1) 日本語クラスについて	9
(2) 第12回作文コンクール	10
(3) 第18回学長杯 留学生によるスピーチコンテスト	12
(4) 留学生の研究発表会	13
(5) 日本文化入門	14
(6) 国際シンポジウム「アジアにおける日本語教育-現状と課題-」	14
(7) ウズベキスタン日本語教育セミナー講義（オンライン）	15
(8) 観光ガイドの日本語コース（オンライン）	15

### 【3 国際教育・交流事業】

(1) 教養科目「異文化コミュニケーション共同演習」	17
(2) ブリッジウォーター州立大学とのオンライン交流会	18
(3) 留学生地域交流（派遣・受入）	19
国際連携部門年間事業実績一覧	20
国際連携部門教職員一覧	21

## 【 1 基幹事業概要】

## (1) 交流協定締結状況

2020年度は、新たに下記の5大学と交流協定を締結しました。

国名	大学名	締結日
ウズベキスタン共和国	タシケント建築土木大学	2020年4月30日
	ウズベキスタン世界経済外交大学	2020年8月5日
	シルクロード国際観光大学	2020年12月16日
	シンガポール経営開発研究所タシケント校	2020年12月24日
ロシア連邦	ペルミ国立大学	2021年3月31日

2020年度末（2021年3月31日現在）において、下記の大学と協定を締結しています。

	国名	大学名
1	大韓民国	慶北大学校
2	ベトナム社会主義共和国	ホーチミン市師範大学
3		ハノイ国家教育大学
4		ダナン工科大学
5	中華人民共和国	浙江師範大学
6		山東師範大学
7		山東大学
8		吉林大学
9		東北財経大学
10		首都師範大学
11		華東師範大学体育健康学部
12		山東財経大学
13		東北大学
14		西安交通大学
15		鄭州大学
16		福建師範大学
17	フランス共和国	トロワ工科大学
18		コンピエーニュ工科大学
19		ベルフォール・モンベリヤール工科大学
20		パリ大学

21		オーデンシア・ビジネススクール
22	スペイン王国	サラゴッサ大学
23		サンディアゴ・デ・コンポステーラ大学
24	アメリカ合衆国	西フロリダ大学
25		ウイスコンシン大学 ミルウォーキー校
26		ブリッジウォーター州立大学
27	グアテマラ共和国	サンカルロス大学
28	オーストラリア連邦	カーティン大学 カーティン・ビジネス・スクール カーティン言語・異文化教育スクール
29		デイキン大学
30	タイ王国	カセサート大学
31	インドネシア共和国	ガジャマダ大学
32		ビナ・ヌサンタラ（ビヌス）大学
33	ラオス人民民主共和国	ラオス国立大学
34	フィリピン共和国	フィリピン国立大学
35	英国	セントラル・ランカシャー大学
36	カザフスタン共和国	カザフ国際関係外国語大学
37	ブラジル連邦共和国	グランデ・ドラードス大学
38	クロアチア共和国	オシエク大学
39	ウズベキスタン共和国	ブハラ国立大学
40		ウズベキスタン国立世界言語大学
41		タシケント国立経済大学
42		タシケント建築土木大学
43		ウズベキスタン世界経済外交大学
44		シルクロード国際観光大学
45		シンガポール経営開発研究所タシケント校
46	ロシア連邦	ペルミ国立大学



(2) 交換留学 受入状況

大学名	受入人数
西安交通大学	2

(3) 交換留学 派遣状況

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大のため学生派遣は中止。

(4) 日本語・日本文化研修留学生 受入状況

国	大学名	受入人数
ベトナム	ホーチミン市師範大学	1
カザフスタン	カザフ国際関係外国語大学	1
インドネシア	ガジャマダ大学	1
	ビナ・ヌサンタラ大学	1
イラン	テヘラン大学	1

(5) その他学生 受入状況

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大のため受入実績無し。

(6) その他学生 派遣状況

2020年度は、オンライン派遣という形態で、以下の実績がある。

派遣先	プロジェクト名称等	期間	派遣人数
韓国	慶北大学校オンラインサマースクール	2020. 8. 17～8. 28	1
韓国	慶北大学校オンラインウインタースクール	2021. 1. 25～2. 5	5
フランス	オーデンシア・ビジネススクール ウインターターム・オンライン	2021. 2. 15～2. 19	2

## 【 2 日本語・日本文化教育関連報告】



# 2020 年度日本語・日本文化教育関連事業報告

## Japanese Language and Japanese Culture Education (2020)

国際連携部門 教授 長友 文子  
Ayako NAGATOMO  
特任助教 松下 恵子  
Keiko MATUSHITA

2019 年暮れから始まった COVID19 パンデミックは、各方面に大きな変化をもたらし、私たちの生活を大きく変えました。教育場面にも大きな打撃を与え、教員にとっても学生にとっても、2020 年度は大きな戸惑いと変化の年となりました。

コロナパンデミックが起こる前には、本学では、交換留学生が増加し、キャンパスにはさまざまな国からの留学生がキャンパスライフを満喫している姿が、当たり前のように目に入ってきていました。増加する多様な目的を持つ留学生のために、20 年度には、さらに日本語の科目を工夫し、新しく新学期を迎えるはずでした。しかし、コロナは予想を超えて猛威を振るい、その影響で、留学生が入国できない状況となり、留学を取り消す交換留学生が続出し、日本人学生も海外への留学を断念せざるを得なくなりました。1 か月遅れて授業が始まりましたが、これまであたり前に行われていた対面の授業はできなくなり、オンライン授業に切り替わりました。入国できずに海外で受講する留学生も含めたオンライン授業では、暗中模索の日が続きました。

Zoom や Teams によるオンライン授業のおかげで、来日できなくても授業に参加はできますが、しかし、オンラインでは空間は共有できません。留学生が、和歌山で学ぶ魅力の一つは、和歌山の文化を体験し和歌山の人々と出会うことです。これまでずっと行ってきた体験型の授業ができなくなったことは、本当に残念なことでした。

それら多くの問題を抱えながら、2020 年度にオンライン授業で実施した日本語教育関連のプログラムとイベントのいくつかを紹介します。

## 【プログラム】

### 1. 日本語クラスについて

留学生の日本語教育科目として、以下の科目を開講しました。

#### <日本語科目>

「日本語中級 A」「日本語中級 B」「日本語中級 C」「日本語中級 D」「日本語上級 A」「日本語上級 B」「日本語上級 C」「日本語上級 D」「日本語中級 K」「日本語中級 L」「日本語中級 M」「日本語中級 N」「日本語上級 K」「日本語上級 L」「日本語上級 M」「日本語上級 N」

2020 年度はコロナの影響による留学生の激減で、初級クラスを開講しませんでした。上記すべて科目はオンラインで行いました。

上記の中級と上級のそれぞれの科目では、留学生は、日本語の 4 技能を学びます。授業が始まる前にオンラインでのプレースメントテストを行い、それぞれのレベルに振り分け、学生のニーズとレベルに合った授業を行いました。

「日本語」と「日本事情」科目は、もともと正規学部留学生の必修科目でした。しかし、日本語の科目を履修する留学生は、正規学部留学生にとどまらず、特に近年（コロナ以前）は、海外協定大学から送られてくる交換留学生や、日本語日本文化研修留学生、学部や院の研究生、院生や博士課程の留学生など、多様な目的を持つ留学生が増え、日本語のニーズやレベルも多様化してきました。

たとえば、英語や中国語などでは、同じ学年、同じレベル、同じ目的をもつ学生が対象ですが、日本語では、レベルもニーズもレディネスも大変多様（漢字圏と非漢字圏など）なので、クラスをいくつも開く必要があります。さらに、専門科目と重なって、そのクラスを履修できない学生もいます。日本語教員と科目数が限られた現状では、そういった留学生の実情にあった、きめ細かな日本語科目を開くのは大変難しいのですが、現状で最大限、多様な留学生のニーズとレベルに対応するよう努力しています。

少ない日本語教員で、多様なレベルの学生が受講可能な時間に日本語を学べるようにするためには、どのように工夫して行くべきかが、ポストコロナを見据えた大きな課題となっています。

### <日本語・日本文化関連科目>

- ①「日本語日本文化研究 A・K」、②「日本事情」、③「日本文化と入門ビジネスジャパニーズ A・K」、④「日本文化入門 A・K」、⑤「外国語としての日本語を学ぶとは」

これらの科目では、留学生は、日本語と共に日本の文化を学びます。特に①「日本語日本文化研究 A・K」では、研究テーマを決めて研究レポート作成をし、発表会を開催し発表をします。発表会には、毎年、学外の方々にも参加して頂いているのですが、今回は、オンラインでの開催となり、ウズベキスタンの大学の先生や学生が参加してくれました（後記参照）。これは、オンラインならではのメリットです。②の「日本事情」では、例年、「和歌祭」の歴史を学びながら実際に祭りに参加するのですが、今年度はコロナで和歌祭りがキャンセルとなり参加できず、オンライン授業しかできませんでした。さらに、留学生のキャリア教育のための③「日本文化と入門ビジネスジャパニーズ A・K」、また、日本人学生と共修で、将来日本語の教師になりたいという学生のための⑤「外国語としての日本語を学ぶとは」という授業も行いました。

## 2. 第 12 回作文コンクール

旧 IER センターでは、毎年、「留学生が見た、感じた、体験した和歌山・和歌山大学」、「和歌山での留学生活から考えた日本語の社会」などを、母語と日本語で書き、世界に紹介する「作文コンクール」を開催してきましたが、研究グローバル化推進機構国際連携部門でも、引き続き、作文コンクールを行っています。第 12 回を迎えた今回は、中国、ベトナム、インドネシア、フランス、ウズベキスタン、韓国の 6 か国からの留学生 16 名の応募があり、次の留学生が受賞しました。

### ◎最優秀賞：

日本語・日本文化研修留学生（韓国）イ・チャンミンさん「水のような振る舞い」

### ◎優秀賞：

経済学研究科 1 年（ベトナム）ル・ハ・ヤンさん「幸せご飯」

経済学部 1 年（インドネシア）ファジャル・スチャディさん「和歌山ってどんな所？」

◎審査員賞：

交換留学生（中国）王 舒媛さん「和歌山から見た美しさ」

経済学部1年生（中国）王 新慧さん「私の眼の中の日本」

◎特別賞：

日本語・日本文化研修留学生（ウズベキスタン）エルガショフ・ホリミルザさん「豪華絢爛な和歌山」

交換留学生（中国）楊 雪さん「和歌山での思い出」

日本語・日本文化研修留学生（インドネシア）ヌニタ・ラティファー・アズハルさん「窓から見た和歌山の景色」

◎努力賞：

交換留学生（中国）王 怡雅さん「のんびりと暮らしている」

教育学部研究生（中国）ジャン・シュオユイさん「山川異域、風月同天」

交換留学生（中国）蘇 文静さん「魅力的な和歌山」

日本語・日本文化研修留学生（ナタシャ・ワンダ・アリアーさん「本心」

交換留学生（中国）孟 廷威さん「和歌山紀行」

日本語・日本文化研修留学生（中国）張 漫漫さん「私から見た和歌山」

交換留学生（フランス）シゾン・ナヨミさん「日本の交通」

経済学部研究生（中国）劉 育伯さん「僕から後輩の君へ」

最優秀賞に輝いたイ・チャンミンさんは、日常生活の中で体験した日本人の行動を「水のような振る舞い」と、味わいのある表現でとらえていました。また、優秀賞のル・ハ・ヤンさん、フェジャル・スチャディさん、そして、審査員賞、特別賞、努力賞のみなさんの作文も、それぞれ、伝えたいことが上手にまとめられて表現された素晴らしい作文でした。

応募者の作品は、国際連携部門 HP に掲載されています。（<https://www.wakayama-u.ac.jp/ird/data/sakubun/introduce12.html>）



### 3. 第18回 学長杯 留学生によるスピーチコンテスト

第18回「学長杯、留学生によるスピーチコンテスト」も、初めてのオンライン開催となりました。和歌山県、和歌山市、(公財)和歌山県国際交流協会、NPO法人WINコンコード、和歌山文化協会、国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川から、いつものように後援していただき、また、来賓の方には大学に来ていただいて、学長と一緒に画面をみていただきました。

コロナの影響で対面での開催が難しくなったのですが、そのおかげで、今回は大きな成果をもたらしました。これまでは、和歌山に在住している留学生だけの参加でしたが、海外からも学生が参加し、オンラインの良さを生かしたコンテストとなりました。

今回のオンラインでのスピーチコンテストには、学外から、和歌山YMCA国際福祉専門学校、和歌山工業高等専門学校、高野山大学の留学生に加え、本学の協定校であるベトナムのホーチミン市師範大学、インドネシアのビヌス大学、およびガジャマダ大学、中国の鄭州大学、ウズベキスタンの国立世界言語大学からの学生の皆さんが参加してくれました。合わせて今回出場されたのは、中国、イラン、ベトナム、インドネシア、カンボジア、マレーシア、ウズベキスタンの7か国から14名の方々でした。

審査の結果、学長杯に輝いたのは、和歌山大学経済学部1年生でインドネシア出身のファジャール・スチャディさん、第二位は、和歌山大学日本語日本文化研修留学生でインドネシア出身のジョバンカ・アリフ・サプトラさん、第三位は中国鄭州大学の馬欣園(マ・キンエン)さんでした。また、特別賞は、和歌山工業高等専門学校留学生でマレーシア出身のワン・アダムさん、高野山大学留学生でカンボジア出身のサン・ソコンさん。WIXAS賞に選ばれたのは、和歌山大学日本語日本文化研修留学生でベトナム出身のマー・ティエット・フーンさんでした。

以上の入賞者はもちろん、参加した留学生の方々は、いずれも、自分の思いを日本語で書き、それを覚え、そして当日、心を込めてスピーチしてくれました。今回のオンラインでのスピーチコンテストで頑張った経験は、よい思い出になるだけでなく、将来に続く大きな自信につながるでしょう。



#### 4. 留学生の研究発表会

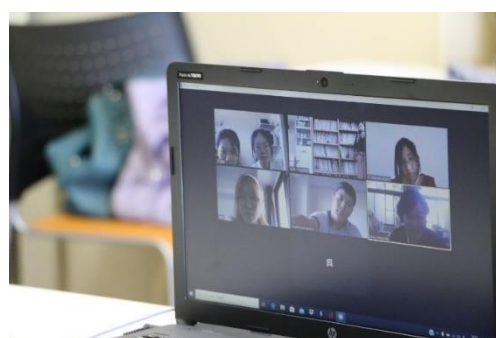
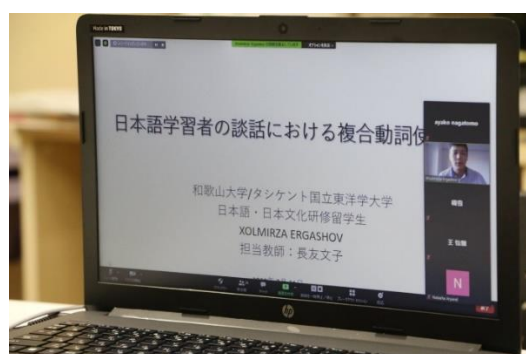
『日本語日本文化研究』の授業では、日本語日本文化研修留学生、交換留学生在が、言葉と文化について研究を行っています。その研究成果の発表会を、2020年7月24日と31日2回にわたりオンラインで行いました。オンライン開催ということもあり、地域の方々だけでなく海外の教員や学生たちも参加してくれました。

##### 24日：発表者とタイトル

1	NUNNITA LATHIFAH AZHAR	ヌンニタ・ラティファ ー・アズハル	インドネシア 日研生	練り物菓子の色が歴史的にどのように変化し、その色が持つ意味についての調査研究
2	王 舒媛	オウ・ジョエン	中 国 交換留學生	マンホール蓋の芸術性について
3	LEE CHANGMIN	イ・チャンミン	韓 国 日研生	韓国語と日本語における表現の差 -『ノルウェイの森』に見られる男女語、受身の表現、授受表現を中心に-
4	孟 廷威	モウ・テイイ	中 国 交換留學生	「道教の日本神話伝説への影響」-『古事記』上巻と『竹取物語』を中心として-
5	張 漫漫	チョウ・マンマン	中 国 日研生	中日コンビニの比較

##### 31日：発表者とタイトル

	氏 名		国 籍	タ イ ト ル
1	NATASHA WANDA ARYAND	ナタシャ・ワンダ・ アリアー	インドネシア 日研生	観光を高める擬人化
2	王 怡雅	オウ・イガ	中 国 交換留學生	中日の妖怪文化の比較
3	楊 雪	ヨウ・セツ	中 国 交換留學生	日中アニメの比較
4	ERGASHOV KHOLMIRZA	エルガシヨフ・ホリミ ルザ	ウズベキスタン 日研生	日本語学習者の談話における複合動詞使用率
5	蘇 文静	ソ・ブンセイ	中 国 交換留學生	中日のオノマトペの比較-「泣く」ときと「笑う」とき-





## 5. 「日本文化入門」

「日本文化入門 A・K」は、交換留学生・日本語日本文化研修留学生を対象とし、茶道、華道、着物、書道などを実際に体験しながら日本の伝統文化を理解する科目です。日本文化に関心のある学生が増加してきたことから2015年度に開講され2017年度から前期と後期に開講しています。今年度はコロナ禍により全面オンライン授業となったため、茶道、着物、書道などの伝統文化の体験授業は実施せず、インターネット学習リソースを活用した美術鑑賞や古典文学の朗読、日本の伝統文化を自国の文化と比較するといった活動を行いました。

## 【イベント】

### 1. 「国際シンポジウム アジアにおける日本語教育—現状と課題—」

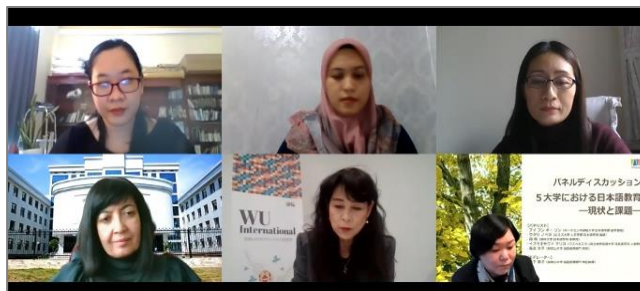
コロナの時代、日本語教育もいろいろな困難に直面しています。日本語教育の現状についての情報を交換し、課題を共有して、協定大学と受入大学の相互理解を深めつつ、日本語教育をさらに発展させることを目指して、表記シンポジウムを2021年3月5日、オンラインで開催しました。

ご協力頂いた協定大学は、ベトナム・ホーチミン市師範大学、インドネシア・ビヌス大学、中国・鄭州大学、ウズベキスタン・国立世界言語大学です。

来賓として、シルクロード国際観光大学・ウズベキスタン共和国副首相のアジズ・アブドゥハキーモフ氏にご挨拶を頂きました。

基調講演は、国際教養大学の伊東祐郎先生に「アジアにおける日本語教育—現状と課題—」というテーマでお話いただきました。その後、5大学のビデオによる発表があり、「5大学における日本語教育」についてのパネルディスカッションを行いました。本シンポジウムには、14か国約240名という多数の参加があり、盛況のうちに終えることができました。

The poster features the WU International logo at the top left. The main title is 'Wakayama University Symposium Series Vol.1 アジアにおける日本語教育—現状と課題—'. It specifies the date as '2021年3月5日(金) 14:00~17:00'. Key information includes 'Zoom開催' (Zoom event), '参加無料' (Free participation), and '定員 500名' (Capacity 500). The guest speaker is '伊東祐郎' (Yoshiro Ito), and the moderator is '長友文子' (Fumiko Nagatomo). The poster also lists other panelists: アジズアブドゥハキーモフ (Aziz Abdurakhimov), アインギリン (Ain Gilin), ナガトモアキコ (Akiko Nagatomo), and イブラキモフマリア (Mariya Ibrahimov). A QR code and contact information for WU International are provided at the bottom.



## 2. 「ウズベキスタン日本語教育セミナー」講義（オンライン）（長友文子）

ウズベキスタンで毎年行っている「ウズベキスタン日本語教育セミナー」（オンライン開催）に講師を依頼され、講義を行いました。このセミナーは、ウズベキスタン日本語教師会（1999年設立）が主催しており、参加者はウズベキスタン教師会会員に限定されています。

セミナーは、2020年8月27日と28日の2日間にわたって行われました。両日とも、ウズベキスタン時間では午前10時から11時半（日本時間午後2時から3時半）に開催されました。

「日本語教育事情—ニーズと教材—」というテーマで長友が講義を行い、日本語教師会からは、両日4名の先生方の研究発表がありました、両日ともに、40名を超える会員が受講されました。

**ウズベキスタン日本語教育セミナー 2020年夏**

主催：ウズベキスタン日本語教師会  
日時：2020年8月27日(木)、28日(金)  
いずれも10:00~11:30  
開催方法：zoomを使用

**プログラム**

**8月27日(木) (1日目)**

10:00~10:45  
1. 「日本語教育事情—ニーズと教材—」①  
長友文子 (NAGATOMO Ayako) 長友山大学  
研究グループ「リ化促進機構 国際連携部門 教授」

10:45~11:30  
2. 日本語教師会会員の発表  
1) 「言語学利用した初級漢字教授法」  
Lutfilloeva Fakhriyeva (サルカント外大)  
2) 「大学の第二外国語としての日本語教育」  
今村菜一 (経済大)

**8月28日(金) (2日目)**

10:00~10:45  
1. 「日本語教育事情—ニーズと教材—」②  
長友文子 (NAGATOMO Ayako)

10:45~11:30  
2. 日本語教師会会員の発表  
1) 「日ウズベキスタン青少年友好交流を  
推進した授業づくり」  
Temirova Mustilma (世界言語大)  
2) 「日本語とウズベク語の構造的特徴  
について (異文化アズベクト)」  
Teranova Nargiza (世界言語大)

参加申し込み：  
日本語教師会 e-mailアドレス (uzjapanese@uzjtc.com) 、または今村+998 80 379 7203まで、ご連絡ください。  
zoomのMeeting ID、Passcodeをご提供いたします。  
参加対象者は、ウズベキスタン日本語教師会会員のみです。  
会員外で参加されたい方は、同時に、教師会への入会申し込みを依頼いたします。  
ご了承ください(入会されたことのない方は、今年度の会員が少ないため、会員は5,000人に引き上げられます。)



## 3. 「観光ガイドの日本語コース (10回講座)」(オンライン) (長友文子、松下恵子)

2020年10月から11月にわたり、全10回(各回80分)の日本語観光ガイドの講座がウズベキスタン国家観光開発委員会主催で開催されました。

近年、ウズベキスタンを訪問する日本人観光客が増加していること、またウズベキスタンでは日本語学習熱が高まっていることから、この講座が開催されました。長友、松下は、講座を担当したほか、講座全体の企画にも加わりました。10回の内容と担当者は、次の通りです。

**TDI TOURISM DEVELOPMENT INSTITUTE**

日本語・日本文化コース

**日本から見たウズベキスタン  
ウズベキスタンから見た日本**

2020年  
10月5日~11月12日 全10回  
各回 10:00~11:20  
詳細は裏面をご覧ください

講師紹介

マリカ・ルスタモワ  
モスクワ大学国際関係学部  
研究員兼講師、人文学部副学長  
担当できるから！

長友文子  
長友山大学国際関係学部  
専任教授、第一言語

松下恵子  
長友山大学国際関係学部  
専任教授、第一言語

中元一恵  
長友山大学国際関係学部  
専任教授、第二言語

主催：ウズベキスタン国家観光開発委員会

**参加無料**

開催期間 2020年10月5日~11月12日

開講時間 各回 10:00~11:20 全10回

対象者 日本語の観光ガイドを目指す大学生  
現役の日本語観光ガイド

内容

回数	日	内容	講師
第1回	10月5日	日本から見たウズベキスタンとウズベキスタン人	マリカ 中元
第2回	10月8日	ウズベキスタンから見た日本と日本人	マリカ 中元
第3回	10月12日	ウズベキスタンに来る日本人の特徴	マリカ 中元
第4回	10月15日	分かりやすい日本語	長友
第5回	10月19日	日本文化(おもてなしの心) おもてなしの本質が知りたい	松下
第6回	10月22日	ガイドの際には(使)観光日本語単語TOP10	マリカ
第7回	10月26日	日本語(役割語) 日本人のイメージする「ガイドさん」とは?	松下
第8回	10月29日	日本の歴史と中央アジア	長友
第9回	11月5日	日本人旅行者から受ける質問TOP10	マリカ
第10回	11月12日	総括	マリカ 長友 中元

受講申込・問い合わせ  
下記連絡先に電話あるいは電子メールにてお申込みください。

ウズベキスタン国家観光開発委員会  
担当: Ms. Elena Golshewa  
TEL: +998-871-2687371  
+998-871-2687367  
Email: info@tdiuz



## 【 3 国際教育・交流事業】

※2020年度の海外短期研修プログラムは、新型コロナウイルスによる渡航制限により、全てのプログラムが派遣中止となりました。

## (1)教養科目「異文化コミュニケーション共同演習」

国際連携部門 藤山 一郎

FUJIYAMA, Ichiro

新型コロナウイルス感染症の拡大により、短期の海外短期研修プログラムが中止を余儀なくされ中、オンラインによる国際教育プログラムとして、教養科目「異文化コミュニケーション共同演習」を開講した。以下の本科目の概要について紹介する。

### 【経緯】

国際連携部門が主催する海外短期研修プログラム「インドネシア・プログラム(IP)」(毎年3月に約2週間の渡航期間で実施)では、例年本学の協定校であるビナ・ヌサンタラ大学(通称ビヌス大学(以下、BINUS とする))に訪問し、合同のフィールドスタディをおこなう。2020年3月のIPでも4日間の日程でBINUS 学生(人文学部日本語学科)とおこなうべく、2019年10月から双方の学生が事前準備を積み重ねてきた。ところが、IPは途中帰国せざるを得ない状況となり、BINUSとのフィールドワークを実現することが不可となった。

帰国後、BINUSの担当教員より、双方で準備していた調査テーマに関するオンライン合同発表会の打診があった。そこで、帰国後も双方の学生が引き続き調査を継続し、オンライン発表会を開催した。この成果を通じて、オンラインによる国際協働学習(COIL)を新たに開講するに至った。

### 【本科目の概要】

BINUSとの共通テーマを、「SDGsからみた Before-After Pandemic の社会変化」とし、COVID-19の世界的感染拡大のなかで日本やインドネシアで発生している社会変化に焦点をあてることとした。双方の学生で3グループを形成し、グループごとにSDGsの17分野から1分野を選択し、調査テーマを設定した。履修者数は本学が9名、BINUS側は10名であった。

授業スケジュールは、全13回(105分/回)の授業を、第1セッション(第1~2回、第13回)、第2セッション(第3~6回)、第3セッション(第7~9回)、第4セッション(第10~12回)と4つのセッションに区分した。第1セッションはオリエンテーションや両学生間のアイスブレイク、グループ分け、そして最終授業では総括として全体の振り返りをおこなう。第2~4セッションでは、セッション毎に調査計画・分担を確認しながら、最後に合同発表(計3回)をおこなう。合同発表では、グループ内でひとつに統合した発表資料を作成することを求めた。原則同じ分野を調査することとしたのは、各グループ内で段階的に調査設計の精緻化や議論の深化をはかり、研究成果の質を高めることを意図したものである。

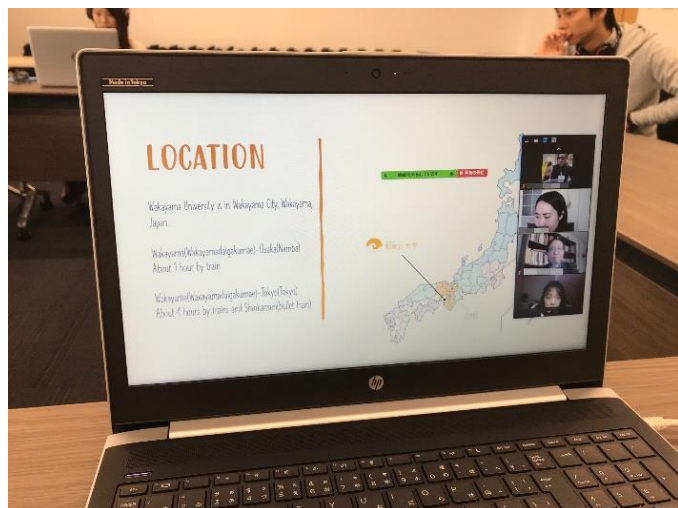
各グループは、互いに意思の疎通に苦労しながら調査・議論・資料作成などの過程を進めてきたことがうかがえた。現地で直接的に交流することを全て代替するものではないが、主体的学習や異文化コミュニケーション能力の向上に資する可能性が判明した。先方の教員ともCOIL型授業を今後も継続することで一致した。(本稿は、「日本・インドネシア間におけるCOIL型授業の実践と課題」、『和歌山大学クロスカル教育機構研究紀要』、第2巻、2021年3月、に依拠している。)



写真1: Zoom 利用時の模様

## (2)ブリッジウォーター州立大学とのオンライン交流会

コロナ禍でも海外への留学や国際交流を諦めずに希望を持ち続けて欲しいという目的の下、初の試みである協定校とのオンライン交流会をアメリカ・ブリッジウォーター州立大学と実施しました。交流会は2回実施され、本学からは31名、ブリッジウォーター州立大学からは37名の参加があり、代表の学生よりそれぞれの大学や町の紹介のあと、学生同士の交流が行われ、参加学生達は新しい国際交流を体験しました。また、ブレイクアウトルームでは教職員同士の交流も行われ、パンデミック禍における強固な連携についても意見交換が行われました。



### (3) 留学生地域交流(派遣・受入)

和歌山大学では、留学生と地域の方々の国際交流を目的に留学生を派遣する活動や大学への受入活動を行っています。派遣活動では、県内の小中学校及び高等学校、国際交流団体に赴き、出身国・地域の紹介を行う等して国際理解を深めています。また受入活動では、大学の授業に参加してもらい、雰囲気を楽しみながら留学生と交流を行っています。

令和2年度派遣活動：

- ・和歌山県立橋本高等学校（2020年9月25日）参加者：高校生200名

留学生2名が和歌山県立橋本高等学校を訪問し、授業協力を行いました。「総合的な探究の時間」にて、東南アジア諸国の持続可能な開発目標（SDGs）について学ぶ学生からの質問に答え、母国について紹介をしました。



インドネシア出身の留学生

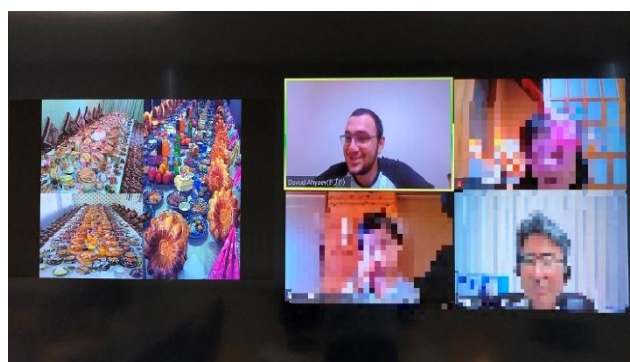


ベトナム出身の留学生

- ・和歌山県国際交流協会（2020年10月18日）

参加者：50名（12カ国・1地域からの参加者）

留学生7名が和歌山県国際交流協会主催のオンラインイベント（インターナショナルカフェ）に参加し、それぞれグループに分かれて出身地について紹介し、日頃接する機会の少ない地域住民の方と交流を行いました。



グループ別での自国文化紹介



参加者全員での様子



## 【2020年度 国際連携部門年間事業実績一覧】

No.	実施日・期間	イ ベ ン ト
1	4月	4月期新入留学生オリエンテーション（オンライン）
2	7月24・31日	留学生による研究発表会（13ページ参照）
3	8月5日	留学生による作文コンクール表彰式（10ページ参照）
4	8月26日	本学学生とウズベキスタン学生とのオンライン交流会
5	8月27・28日	ウズベキスタン日本語教育セミナー（オンライン）（15ページ参照）
6	8月31日	交換留学報告会（オンライン）
7	9月15日	2019年度日本語・日本文化研修留学生修了式
8	9月25日	和歌山県立橋本高校との留学生交流授業（19ページ参照）
9	10月	10月期新入留学生オリエンテーション（オンライン）
10	10月5～11月12日	日本語・日本文化コース「日本からみたウズベキスタン ウズベキスタンからみた日本」（オンライン）ウズベキスタン国家観光開発委員会主催（15ページ参照）
11	10月18日	和歌山県国際交流協会主催インターナショナルカフェ（オンライン） （19ページ参照）
12	10月22日	新入留学生歓迎交流会（オンライン）
13	10月30日	国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川からの寄付金贈呈式
14	11月9日	「英文契約書の読み方」講座（オンライン）
15	11月10日	ブリッジウォーター州立大学（米国）との第1回オンライン交流会 （18ページ参照）
16	11月19・20日	日本留学フェアinウズベキスタン参加（オンライン）
17	11月24・25日	学生交流協定による交換留学ガイダンス（オンライン）
18	12月12日	留学生による日本語スピーチコンテスト（オンライン）（12ページ参照）
19	2月18日	ブリッジウォーター州立大学（米国）との第2回オンライン交流会 （18ページ参照）
20	3月4日	NPO法人WIN コンコードに対する感謝状贈呈式
21	3月5日	WU International 主催国際シンポジウム「アジアにおける日本語教育—現状と課題—」開催（オンライン）（14ページ参照）
22	3月17日	和歌山キワニスクラブからの留学生支援物品贈呈式

【国際連携部門教職員一覧】（2021年3月31日時点）

部門長 井伊 博行(システム工学部 教授)  
副部門長 長友 文子(国際連携部門 教授)  
副部門長 藤山 一郎(国際連携部門 准教授) ※編集担当  
松下 恵子(国際連携部門 特任助教)

【国際交流課】

課長 中元 一恵  
係長 辻野 利明  
篁 紘子  
ジェイコブソン久美子  
程 奈緒子  
長野 慎一  
佐藤 理恵子

